楽しく読み解く環境マガジン。

e-dream

2010 SUMMER

27 vol.

Think about biodiversity.

小さな生物が支える
大きな生態系のバランス

HONDA

小さな生物が支える大きな生態系のバランス

地球上には
数多くの生物が生きています。
それが小さな生き物であっても、
いなくなってしまうことで
生態系のバランスが崩れ、
思いもよらない
影響をもたらすことも。
生物同士のつながり
「生物多様性」を
守ることが大切なのです。

ミツバチがいなくなると人間の食べ物がなくなる!?

つい最近も「ミツバチの大量失踪」というニュースが世間をにぎわせました。アメリカ、ヨーロッパ、そして日本からたくさんのミツバチが姿を消してしまったのです。その結果、ニンジン、カボチャ、トマトから、メロン、リンゴまで、ミツバチを介して受粉するはずの農作物が実を結ぶことができず、農家は死活問題となるほど大きな打撃を受けました。

たった一種類の小さな生き物・ミツバチがいなくなると野菜や果物が食べられなくなるなんて、いままで誰が想像したでしょうか。しかし逆にそれは、ミツバチのような小さな生き物からも人間はとても大きな恩恵を受けている、という事実を人々が知るひとつのきっかけになったのです。

食べ物だけではない、人間は生物の恵みで生きている

たとえば、かぜ薬や抗がん剤など私たちが使う薬の約半数は、自然界から得られる成分で作られています。もし動植物が減ってしまうと、薬が作れなくなり病気を治せなくなることも考えられます。人間もまた地球上の数多くの動植物とのつながりの中で生きている存在です。そのつながりがひとつでも崩れると、私たちの生活や命が危険にさらされることさえあるのです。この多様な自然から私たちが受けている恩恵は「生態系サービス」といいます。

このように多くの動植物がお互いのつながりの中で生きている状態が「生物多様性」と呼ばれているもの。しかしいま世界で、この生物多様性が危機に瀕しています。土地開発や乱獲による自然環境の破壊など、人間の活動が原因で生物の絶滅スピードが急上昇しています。そのスピードは、かつて恐竜が絶滅した時代よりも早いほどではないかという研究者たちの意見もあるほどです。

生物多様性が失われることは、私たちが生きるために必要な生態系サービスも失われるということです。私たちは自分たちの暮らしを守るためにも、この生物多様性と生態系サービスの保全に、真剣に取り組む必要があるのです。

私たちが受けている生態系サービスの一例

生活の道具

家を建てる木材、
本やノートの原料である紙、
洋服を作る綿や
麻や絹など、
私たちの生活を支える
素材の多くは、
多様な生き物の営みを経て
世界に存在しています。

食べ物

私たちが食物として口にする、
肉・野菜・果物などは、
すべて他の生物からの恵み。
私たちは他の生物の命を
食することで
生命を維持しています。

大気や水

私たちが生きるために
欠かせない酸素は、
植物が光合成によって
生み出したもの。
飲み水や生活用水も、
雨水が土壌によって
浄化されたものです。

生物多様性条約の締約国会議 COP10 が名古屋で開催される

生物多様性を保全するための世界的な取り組み「生物多様性条約」。1992 年に日本、EC を含む約 190 ヶ国が締結し、世界の生物多様性を保全するための具体的な施策を検討しています。

生物多様性条約の目的

①地球上の多様な生物をその生息環境とともに保全すること
②生物資源を持続可能であるように利用すること
③遺伝資源の利用から生ずる利益を公正かつ衡平に配分すること

この条約の第 10 回締約国会議(COP10)が今年の 10 月、名古屋で開催されます。「2010 年までに生物多様性の損失速度を顕著に減少させる」という目標について検証し、次の 10 年に向けた新しい目標を定めるための重要な会議です。

生活環境の維持と保護

災害などから
生活環境を守る役割を果たしています。
たとえば山に大量に降った雨水は、
森林によって蓄えられることで
洪水などを防いでいます。

自然界の知恵

動植物は長い時間をかけて
多様な進化を遂げてきました。
その生態を研究して得た知識は、
さまざまな工業製品や
医薬品などの開発に
活かされています。

生物の多様性保全に世界が動き出している

今、地球上の動植物は加速度的に減り続けています。過去30年間で生物の3割近くが失われたとされ、さらに毎年1000から1万の種が姿を消しているのです。

もちろん、これまで地球上に現れた生物の大部分は絶滅しているという解釈もできるでしょう。しかし、問題はその原因とスピードです。森林の開発や生物の乱獲など、特に20世紀以降、人間の活動が原因となって絶滅した生物が後を絶ちません。さらに近年では地球温暖化がこの傾向に拍車をかけています。

加速度的に生物が絶滅していくことの何が問題なのでしょうか。多くの動植物はお互いのつながりの中で生きているので、ある生物がいなくなることで他の生物にも影響が出るのは当然のことです。そのスピードが早すぎると、生態系の修復機能が働く前に絶滅が連鎖してしまいます。すると人間の生活を支える動植物も減っていき、ゆくゆくは人間の命も脅かされることになるのです。

アメリカのミツバチの失踪は、日本に輸入されるアメリカ産の野菜や果物に大きな影響を与えました。もしまた、どこかの国で生き物が絶滅しても、

Think about biodiversity.

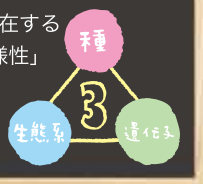
生物多様性の注目キーワード

ホットスポット

もともと生物多様性が豊かだったにも関わらず、破壊の危機にさらされている場所のこと。1500 種以上の固有植物が存在し、原生から失われた生態系が 70%以上。
日本列島は、世界中に34ヶ所あるホットスポットのひとつ。

3つの多様性

生物群集にさまざまな生物種が共存している様子をいう「種の多様性」に加えて、熱帯雨林や里山、草原など、さまざまな生態系があるという「生態系の多様性」、そして同じ種のなかにもいろいろな遺伝子が存在する「遺伝子の多様性」の3つがあります。



外来種の問題

外国などから持ち込まれた生き物が原因で、その地域の生態系が破壊されてしまうことも。釣りの対象魚として人気のブラックバスやブルーギルなどの放流、ペットとして輸入したワニガメなどが捨てられるといった問題により、在来種の絶滅が発生しています。

MSCとFSC

適切に管理され、環境に配慮した漁業の水産物につけられるのがMSC認証マーク。適切に管理された森林から生産された木材を使った製品につけられるのがFSCロゴマークです。私たちがこうしたラベルをつけた製品を選ぶことは、生物多様性の保護につながります。

※「FSC」ロゴマークの付いた製品を買うことは、適切に管理された世界の森林を支援することにつながります。

未来の特効薬

薬のおよそ 40%は自然界からのもの。熱帯林のバライロツルニチソウから小児白血病の治療薬が作られるなど、希少な種から多くの特効薬が発見されました。種の絶滅で、未来の特効薬を発見前に失ってしまうかもしれません。

それは遠い世界の出来事ではなく、めぐり巡って私たち日本人の生活をも脅かすことにつながるかもしれないのです。

身の回りの自然について、知ることからはじめよう

私たちの暮らす日本は、実はとても生物多様性が豊かな地域です。たとえば東京にある高尾山には、イギリス1国分よりも多くの動植物が生息しています。首都圏のひとつの山に、ひとつの国を超える生物多様性がある。身近なところに驚くほど豊かな自然を持つのが日本なのです。

私たちが、この身近な自然を守るためには、まず知ることが大切です。身の回りにどんな動植物が生きているのか？　その生き物がどんな危機にさらされているのか？　自分の住んでいる地域の在来種は何で、どんな外来種が入ってきているのか？　そんな「知ること」から生物多様性の現実に触れていきましょう。

里山を守る活動に参加したり、買い物の際に生態系の保護に配慮した製品を選ぶことも個人ではじめられる取り組みです。まず、身の回りを見渡して、できることからはじめる。そんなところから、生物多様性の保全に取り組んでみてはいかがですか。

サーキットを取り囲む「もてぎの森」で、人の元気を創造する

ホンダが運営するサーキット「ツインリンクもてぎ」には、もうひとつの顔があります。それは生物多様性豊かな里山の顔。ホンダは豊かな多様性を維持しながら、この里山を、人の元気を創造するフィールドにすることを目指しています。

ホンダが目指したのは、人と自然とモビリティの融合

栃木県芳賀郡茂木町にある「ツインリンクもてぎ」。サーキットを中心に、周囲に広大な里山を有するこの施設のコンセプトは、「人と自然とモビリティの融合」です。

自然を活かして、人と自然の限りない共生を目指す。そのためホンダは、建設時から環境に細心の注意を払いました。従来の水系や山々の稜線など、周囲の景観を残しながら、土砂を一切外部へ持ち出さず、また持ち込まない。開発地に棲むハッチョウトンボは、地元の研究者と協力して世界で初めて移植、保護しました。

こうした努力のもと、640haに及ぶ敷地の一部に、サーキットやホテルが建設されたのです。

昆虫たちの命を育む「生命(いのち)の塔」

枝で囲った中に落ち葉を入れた不思議な造形。
木や葉っぱが朽ちていきながら、
新しい生命を育んでいく「生命の塔」は
野鳥や昆虫、植物が集まるタワーです。

木々の生命を間近で感じる「樹冠タワー」

地上 18m の「樹冠タワー」では、
木の先端部やそこに宿る生命を
間近で観察することができます。
樹冠を飛びぬけて、
360 度に広がるパノラマも必見です。

オオタカも飛来する「ハッチョウトンボの棚田」

ツインリンクもてぎオープン以来、
大切に保護してきた場所です。
日本最小のトンボ“ハッチョウトンボ”が
初夏になると観察できます。

切った木を並べて虫や小動物の隠れ家に

伐採した木は適度な長さに切り揃え、
渦を巻くように並べます。
木が朽ちて土に還るまでの間は、
ここが生き物たちの隠れ家になります。

一般来場者を受け入れる施設「ハローウッズ」。

荒れ果てたかつての里山を、生物あふれる森に再生

「ツインリンクもてぎ」の敷地の65％は、自然豊かな「里山」として保全育成されています。

「茂木町は、日本列島を分ける北と南の植生がちょうど交差する場所。北と南、両方の動植物が共存する、豊かな生物多様性を備えた場所なのです」と語るのは、「もてぎの森」プロデューサーの﨑野隆一郎氏です。

しかしホンダが入手する前、この里山は放置され、荒れ果て、本来の生物多様性を失っていたと言います。

「生き物は、自分の住みやすい環境になるまでじっと隠れているんです。だから生き物が暮らしやすい環境を整えることから始めました。太陽が当たるように生い茂った竹薮を切り、樹木を間伐し、放置された棚田に綺麗な水を引いたり……」

そんな取り組みにより、森を離れていた生物達が徐々に戻ってきました。植物が元気になり、植物を好む昆虫たちが現れ、そして鳥が、動物が、「もてぎの森」に戻ったのです。

総敷地面積 640ha は、東京ドームの 137 倍の広さ。

「もてぎの森」は、人の元気を創造する

ホンダが「もてぎの森」で目指すのは、「人を元気にする森」です。

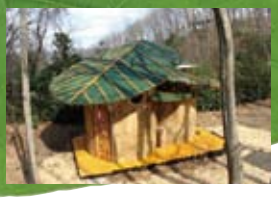
ドングリを食べる動物、動物の糞を食べて森を綺麗にする昆虫、動物に食べられて種子を移動させる果実。様々な生物の繋がりが、森を豊かで元気にします。そして森を訪れた人は、この〝いのち〟の繋がりを肌で感じ、森の元気をもらって自分も元気になるのです。

森の整備を始めて10年。今や「もてぎの森」は、オオタカ、サシバなどの絶滅危惧種から、日本一小さなトンボであるハッチョウトンボまで、様々な生物が暮らす自然の宝庫です。

森の玄関「ハローウッズ」では、キャストの案内で子供たちだけでなく大人たちも、森を思う存分楽しみます。「もてぎの森」は、多様な生き物を育むと共に、人の元気を創造するフィールドなのです。

排泄物を微生物で完全分解する「森のトイレ」

水道管を引いていませんが水洗トイレです。
土壌菌（バクテリア）が、私たちの排泄物を分解。
流し水として再生され、循環させながら
何度も使用しています。



ドングリの生と死の追跡調査

自然に落ちたドングリに、年ごとに分類するタグをつけました。ゆっくりと土に還ってゆく自然な姿を、時間の経過とともに観察できます。

生物多様性を実感できるイベントも

ホタル鑑賞ウォーク

放置され、閉鎖的になった生態系に手を入れ、活性化させた事により復活したホタルを、提灯を持って見に行く幻想的な体験です。

昆虫採集ガイドウォーク

野生のカブトムシやクワガタの生き生きとした姿を観察しながら採集します。生物の多様性が豊富な森ならではの昆虫採集が可能です。

森づくりワークショップ

生物の生育環境を整えるための草刈りなどの作業を行い、自然と人間の関わりについて学べます。昼は作業、6、7月の夜はホタル鑑賞を楽しめます。

夏のガキ大将の森キャンプ

小学4年生～中学3年生を対象に、夏休みに行われる30泊31日のキャンプ。最終日には太平洋（大洗海岸）まで65kmをカヌーと徒歩の人力だけで旅します。

企業の研修にも

自然の中で行う体験型の研修。グループ単位で課題解決していく活動を通して、お互いを尊重するなどの様々な「気づき」を得ることができます。

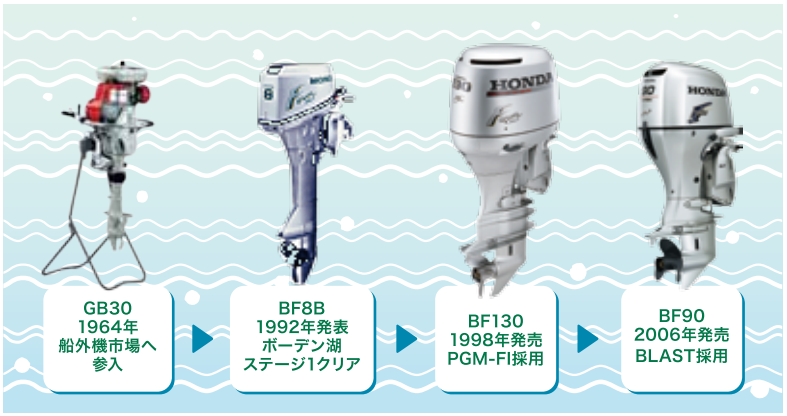
生まれたときからエコでした。世界の水上をクリーンに走るHondaの4ストローク船外機。

欧州と米国の厳しい排出ガス規制を、
いち早くクリアしたHondaの4ストローク船外機。
そのルーツにあったのは、創業者・本田宗一郎の
エコロジーにかける深い思いでした。

チャレンジだった4ストローク船外機

船外機は2ストロークエンジン(以下2スト)。それが当たり前だった64年、ホンダは4ストロークエンジン(以下4スト)の「GB30」で市場に参入しました。

排気はクリーン、音も静か、しかも燃費に優れる4スト。しかし構造が複雑で重く、コストもかかるため、当時4ストを量産するメーカーはホンダだけでした。



それでもホンダが当初から4ストにこだわった理由。それは未燃焼オイルをそのまま水中に排出する2ストの構造でした。「水上を走るもの、水を汚すべからず」という、本田宗一郎の信念がそのチャレンジの根底にあったのです。

高い環境対応力に世界が注目

ホンダの船外機が広く知られる転機となったのは、93年から欧州で施行された「ボーデン湖規制」。世界で初めてマリーンエンジンを対象とした非常に厳しい規制でした。

他の船外機メーカーが開発に苦慮する中、ホンダは4ストのクリーンな排気に加え、点火時期を細かく調整するなどで、施行1年前の92年には「BF8B」を発表し、この規制をクリア。翌年からは合計10種類もの規制対応モデルを発売し、さらに98年からのEPA※1によるマリーン規制も、様々な取り組みで施行以前に規制を大幅に下回る数値でクリアしました。

その後もさらなる排出ガスのクリーン化や低燃費を目指し、中大型船外機にはPGM-FIシステム※2を採用、船外機としては世界初となるリーンバーンを実現しました。

こうして完成したラインナップを規制の有無にかかわらず世界中に供給することで、環境保護が声高に叫ばれる時代の到来とともに、ホンダの4スト船外機は一躍脚光を浴びることとなったのです。

クルマと水上エンジンのシナジー効果へ

中大型船外機では、クルマのエンジンのクランクシャフトを活用するなど、クルマとの技術シナジーを展開し、そこに水上用のノウハウを注ぎ込むことで獲得した信頼性と耐久性は他にないアドバンテージ。その高い信頼性が評価され、現在米国の沿岸警備隊で採用されているほど。また、世界的な市場調査機関であるJDパワー社の「4ストEFI船外機部門」においても、お客様満足度ナンバーワンの評価を4度獲得しています。

近年は4ストの課題を克服する新技術で、大幅な高性能化も。いままでにない瞬発力と加速性能を発揮する「BLAST(ブラスト)」は、燃料噴射量と点火時期をコントロールする技術で通常航行時の燃費の向上と力強い走りを両立させました。

初代「GB30」誕生から半世紀近く経ったいまも、環境への思いは変わらず。エコロジーをまず考えるホンダの船外機は進化を続けています。

※1 米国環境保護庁　※2 電子制御燃料噴射装置

人にも生き物にもうれしい自然が、「5本の樹」のある庭にできました。

庭木にかけた巣箱に鳥たちが訪れ、春には蝶が飛びかう。
まるで日本に昔ながらある里山のような心なごむ景観。
積水ハウスがすすめる「5本の樹」計画は人と自然の
ふれあいを庭からはじめる新しい提案です。

「5本の樹」のある庭にはたくさんの生き物が集まり、自然環境とつながりながらひとつの生態系を描きます。

profile | 積水ハウス株式会社

1960年、積水化学工業株式会社のハウス事業部を母体として設立。1963年、日本初の総合住宅展示場に出展。1999年に「環境未来計画」を発表し、環境推進部を設置する。2001年より『5本の樹』計画を開始。

生き物を招くことのできるやすらぎの空間づくり

「3本は鳥のために、2本は蝶のために」。そんなテーマを掲げる積水ハウスの『5本の樹』計画は、生き物が安心して過ごせる空間を庭につくることで、たくさんの生き物を庭に招待しようという新しい提案です。

「これまで日本の庭では、庭木には美しさを優先した園芸品種や外来種が優先され、生き物にとって利用価値が高いかどうかは重視されませんでした。しかし自然とつながる喜びを感じられる、緑の質の高い住宅が、お客様にとっての新しい価値になると考えるようになったのです」と環境推進部部長の佐々木氏は話します。

まずは環境NPOといっしょに地域の気候風土に適した樹木をセレクトすることから始めました。そこでヒントとなったのは日本の里山でした。人々が手を入れることで豊かな生物多様性を保ってきた自然の姿には、大いに学ぶところがあったのです。在来種は周辺の生き物が利用するので、庭に小さな生態系が生まれ、病害虫に対する耐性も高いため、園芸品種や外来種と比べて薬剤散布の手間も抑えられるのです。

積水ハウスでは、これらを踏まえて国内を5つのエリアに分類しました。そして、それぞれの地域に最適な在来種の樹木を、見栄えはもちろん、鳥や虫など呼び寄せたい生き物に合わせ、時間をかけ独自に選別していったのです。さらに原種・在来種の類は市場に出回っていなかったため、造園業者に苗木を育てることからお願いしなければなりませんでした。

自然のある庭づくりは美しい街づくりへ

こうしてはじまった『5本の樹』計画。2006年には地球温暖化を個人レベルで防ぐ活動として、グッドデザイン賞の新領域デザイン部門を受賞。現在では新築物件のうち約半数のお客様が導入されています。そしてその効果も目に見えて現れています。ある地域では『5本の樹』の庭にやってくる鳥が3種から8種に、虫は4種から32種に増えたとか。子どもやご近所との会話が増えた、生き物の来る庭の価値がわかった、と好評です。

また近年は大規模商業地域への採用も増えてきました。「今後は生き物と共生する暮らしの楽しさを、一人でも多くのお客様に伝えていきたい」と佐々木氏は語ります。

ビジネスユースの電動二輪車「EV-neo」を2010年12月に発売予定

「静か」「きれい」をキーワードに、低炭素社会の実現に寄与しながら人と物を運ぶ新時代の電動二輪車。

30km／hの定地走行時の航続走行距離は、30km以上

普通充電器(100V電源)では約4時間で100%、急速充電器(200V電源)では20分で約80%充電可能。

ホンダは、2010年4月、日本国内で配達業務などを行う企業や個人事業主を対象に、2010年12月よりリース販売を行う予定の電動二輪車「EV-neo(イーブイ・ネオ)」の試作車を公開しました。

これは、配達業務などビジネスでの活用を目的に開発されたスクータータイプの電動二輪車で、走行時にCO_2を一切排出しない高い環境性能を実現しています。

バッテリーにはリチウムイオン電池を採用し、家庭用電源での短時間充電も可能とするとともに、航続距離にも配慮。また、モーターにはブラシレスモーターを採用し、低回転からトルクのある特性を活かして荷物積載時にも力強い発進性能を実現するなど、現在市販されているガソリンエンジンの原付一種(第一種原動機付自転車)並みの実用性を備えています。

この「EV-neo」は、「静か」「きれい」をキーワードに、低炭素社会の実現に寄与しながら人と物を運ぶ新時代の電動二輪車として、2009年の第41回東京モーターショーでコンセプトモデルを初公開し、現在、市販化に向けた開発を行っているモデルです。

ホンダは、今後も地球規模でのCO_2排出量削減に寄与するため、環境性能に優れた製品を、より身近に、より多くのユーザーに提供していきます。

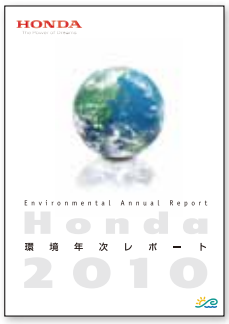
家庭用カセットガス燃料で電気を作るガスパワー発電機「エネポ EU9iGB」発売

エネポ(ENEPO)は、Energy(エネルギー)とPortable(携帯用)とEpoch(新時代)を掛け合わせた造語。

ホンダは、家庭用カセットガス燃料を使用して電気を作り出すガスパワー発電機「エネポEU9iGB」を、5月13日より販売開始しました。

エネポは、3つの簡単＝「燃料の取り扱いが簡単、移動・収納が簡単、操作が簡単」をコンセプトにした出力900VAの小型発電機。「高速多極オルタネーター」を採用した正弦波インバーター搭載で、パソコンや消費電力が900W以下の照明機器や電動工具などに対応。同出力のホンダガソリン発電機に対し、作業時間あたりのCO_2排出量を約10%削減しています。

「ホンダ環境年次レポート2010」を発行しました



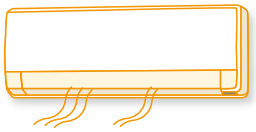
PDF ファイルの閲覧、冊子の請求はこちらから
http://www.honda.co.jp/environmental-report

ホンダでは、1998年以降毎年環境年次レポートを発行しています。年度ごとの環境取り組みの目標と結果を、正確に、ステークホルダーの皆様にご報告するコミュニケーションツールと位置づけております。「ホンダ環境年次レポート2010」では、前年度レポートよりもさらにグローバルの情報を充実させるだけでなく、分冊版である「取り組み事例集と補足情報」で工場や販売店などの具体的な取り組みに焦点を当て詳細な報告を行う事例紹介ページも充実させました。是非、ご一読いただき、オールホンダ一丸となって取り組んでいる環境取り組みへの理解を深めていただきたいと思います。

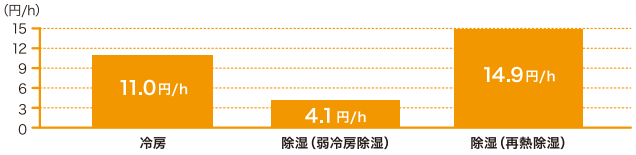
地球にやさしい、エコな発想の転換を。

エコロンブスのタマゴ

冷房の方がおトクな場合も?! エアコンの「除湿」モードを上手に使おう



設定温度24℃の時の各モードのコスト比較



	冷房	弱冷房除湿	再熱除湿
消費電力量	○ 再熱除湿より少ない	◎ 最も少ない	△ 冷房より多い
お部屋の湿度	↘ 最も下がる	↘ 少し下がる	→ あまり下がらない
湿度量	💧💧💧 最も多い	💧 あまり多くない	💧💧 多い
こんな時にオススメ	●短時間で部屋を冷やしたい時 ●蒸し暑くて、温度も湿度も大きく下げたい時	●軽く除湿したい時 ●休日などで運転時間が長いが、省エネしたい時	●(梅雨寒時期など)湿度は下げたいけど、温度は下げたくない時 ●就寝時や就寝前など

出典:東京電力くらしのラボHP「くらしのラボ」検査

※お使いのエアコンによっては、「除湿」よりも「冷房」の方が省エネになる場合があります。

エアコンを使うことが多くなる季節になりました。このごろは省エネのために、室温を高く設定したり除湿モードにする人も増えているようです。ところがこの除湿モード、「電気代を節約できるから」という理由でお使いの方も多いようですが、実はそうとは限らないのです。

エアコンの除湿モードには「再熱除湿」と「弱冷房除湿」という2種類の方式があります。そのうち再熱除湿方式は、冷やした空気を温めなおす仕組みのためお部屋の温度は下がりませんが、冷房モードよりも電気を多く使ってしまうのです。もうひとつの弱冷房除湿方式は、除湿時にあまり強く空気を冷やさないので冷房モードよりも電気の消費量は少ないものの、再熱除湿方式よりも除湿効率はダウン。つまり除湿量と電気使用量のバランスがとれているのは、ごくふつうの冷房モードだったのです。

除湿モードを省エネとして使うのであれば、いまお使いになっているエアコンがどちらの除湿タイプなのか、また最近は両モードが搭載されている機種も増えていますので、まずはお手元の取扱説明書やカタログなどでご確認していただくことをお勧めします。温度や湿度をすばやく下げたいときは、冷房モードで運転してから除湿モードに切り替えると省エネで効果的です。室温などを自動でコントロールするタイプは自動に設定を。エコなエアコンのモードを上手に使って、省エネしてみませんか。

あの人もあの国も、地球にスマイル。

ワールドエコラム

ソーラーパネルを背負ったラクダの移動病院が僻地(へきち)の医療に活躍!

Reported by

ダニエル・オジュワンさん

ナイロビと東京で旅行会社を経営されています。ケニア旅行のご相談は日本語でOK。
www.tamasha-afrika.com

From

Republic of Kenya

ケニアでは都市部から遠く離れた土地での、病院や医師の不足が深刻な問題になっています。そこでいま注目されているのが、なんとラクダを使った移動病院。医薬品や荷物を運びながら、アフリカの険しい山道や砂漠の長い道のりを移動するには、熱さや乾燥に強く、荒れた道も歩けるラクダがもっとも効率的な移動手段だったのです。

この移動病院の画期的なところは、ラクダが発電用のソーラーパネルを背負っていること。無尽蔵に降りそそぐ太陽光で発電し、小型の冷蔵庫でワクチンなどの医薬品を冷やすことができます。高い気温の中で、デリケートな医薬品の温度を適正に保つ大切な役割を担っているのです。そしてときには、往診先で医療機器を動かすための電力として使われることもあるとか。

僻地医療に有効な取り組みとして、世界銀行からも認められたラクダの移動病院。現在はまだテスト段階ですが、年内には本格的に活用がはじまる予定です。

エコタイヤの性能が ひと目でわかるようになりました

クルマの燃費がよくなれば、経済性はもちろん
地球温暖化の原因のひとつとされるCO_2排出量も減らせます。
そこで、低燃費走行の要となるタイヤのエコ性能を
誰でもかんたんに比較できるラベリング制度が、
今年の1月からスタートしています。

※このラベルはタイヤ販売店などで交換用として販売されている乗用車用の夏タイヤに表示されます。
●参画企業：ブリヂストン、住友ゴム工業、横浜ゴム、東洋ゴム工業、日本ミシュランタイヤ、日本グッドイヤー

※イメージ図

ラベルの見方

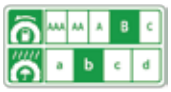
低燃費タイヤマークの有無で、低燃費タイヤかどうかが一目でわかります。また、ウェットグリップ性能と転がり抵抗性能、それぞれのグレードを比較することができます。

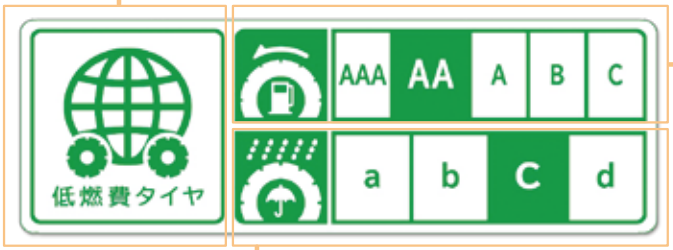
低燃費タイヤの場合

転がり抵抗の性能が優れた（Aグレード以上）のタイヤには、このマークが表示されます。

低燃費タイヤ以外の場合

転がり抵抗性能がBグレード以下のタイヤには低燃費タイヤマークが付きません。





安全性の指標である ウェットグリップ性能

濡れた路面での性能を表すウェットグリップ性能をa～dまでの４段階で表示。転がり抵抗とウェットグリップ性能は相反する関係にありますが、両方をバランスさせた高性能タイヤも増えています。

低燃費のポイントとなる 転がり抵抗性能

燃費に与える影響が大きい路面との間で生まれる転がり抵抗係数に応じて、グレードAAA、AA、A、B、Cの５等級に分類。そのなかでもA、AA、AAAを低燃費タイヤと位置づけています。

タイヤの性能は転がり抵抗とウェットグリップ性能だけでなく、耐摩耗性やドライグリップ、静粛性、乗り心地などさまざまなものがあります。使い方に合わせた性能のバランスを考慮して選ぶことが大切です。

タイヤの性能をしっかり引き出す空気圧管理。

タイヤの空気圧管理も燃費向上に効果的です。空気圧が落ちているとタイヤが変形しやすくなり、転がり抵抗が増えてしまうのです。国民生活センターのテストでは、空気圧が指定値よりも30%低いタイヤで走行すると、燃費が8.5%悪化するというデータも。クルマごとに指定されているタイヤの空気圧を取扱説明書などで確認し、1カ月にいちどはチェックしてみてはいかがですか。

発行
本田技研工業株式会社　環境安全企画室
東京都港区南青山 2-1-1　〒107-8556
発行日
2010 年 7 月 1日（年 4 回発行）

編集委員
遠藤伸子　（四輪営業部）
篠崎直嗣　（法人営業部）
有田省三　（サービス・部品販売事業部）
山田　真　（汎用営業部）
中島隆一　（広報部）
落合英雄　（環境安全企画室）
山本真由美　（環境安全企画室）
渡部　昭　（株）本田技術研究所
鈴木秀男　（株）本田技術研究所
村山　孝　（株）本田技術研究所
藤原宏文　（株）ホンダモーターサイクルジャパン

今回のテーマ

生物多様性とは、あらゆる生物種の多さと、それらによって成り立っている生態系の豊かさやバランスが保たれている状態。地域固有の歴史が育んだ生物がそれぞれにふさわしい環境で生き続け、健全な生態系が持続するように、人間の活動を自然に調和させることが重要なのです。

HONDA

Honda Web サイト　●〈環境への取り組み〉http://www.honda.co.jp/environment/
●〈e-dream〉　http://www.honda.co.jp/e-dream/

本冊子は、不要になったHondaの旧パンフレットやレポート等を製紙原料と配合したHonda独自の循環型再生紙を使用しています。インキは植物油100%の「大豆インキ」（VOC成分ゼロ）を使用しています。
PRINTED WITH SOY INK

M2 Y A 100001007